

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（A）】

実施内容報告書

受託団体名：佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

1. 事業名称

・佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語支援モデル・プロジェクト」2015

2. 事業の目的

・佐賀県は外国籍住民の散在地域で、これまで地域日本語教室が非常に少なかった。当団体が文化庁委託事業で平成24年度から始めた事業により、平成26年末現在9市に12の教室が活動している。今年度は「初級日本語集中講座」を受講した外国籍住民を地域の日本語支援ボランティアに繋ぐ構図をしっかりとものにしたい。そのためにフォローアップ講座を開講する。現在活動中のボランティアからの要望が多い文法講座も開講する。また、昨年度作成した日本語教室用の教材「日本語ボランティア教室活動ブック」の改訂・増補を行う。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。

3. 事業内容の概要

①教室の開設・・・昨年度までに引き続き、佐賀県内4地域で「初級日本語集中講座」を開講した。

②人材養成・・・立ち上がったばかりの日本語教室がしっかり活動していくためには、いろいろな支援が必要である。1つは地域のボランティアのフォローアップである。ボランティア・スタッフも外国人学習者もなかなか集まらないという散在地域の現状の中で頑張っているスタッフのために、その地域に出向いての講座を実施した。このフォローアップ講座は①の初級日本語集中講座を活かす形で進めた。また、既存の教室で活動中のボランティアのために、文法ブラッシュアップ講座を行った。

③教材作成・・・26年度に地域日本語教室で使用する日本語学習教材を作成した。今年度はその教材「日本語ボランティア教室活動ブック」の改訂・増補を行い、更に指導者用マニュアルを作成した。

4. 事業の実施体制について

・本事業を実施するための中核メンバーは大学の非常勤講師として留学生への日本語教育に従事している。取組の中の①「初級日本語集中講座」においては全体のコーディネートと指導者として1日6時間の授業を担当した。②の各養成講座では、講師及び補助者として講座を運営し、コーディネーターとして講座開講への道筋をつけた。③の教材作成では平成26年度に作成した「日本語ボランティア教室活動ブック」の改訂・増補を行った。使い方の「手引き」も執筆した。

当団体は以前から、佐賀県国際交流課、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会と協力体制を取りながら事業を行なっている。佐賀市以外の外国籍住民散在地域の日本語教室支援を行うために、各地の行政担当者及び教室スタッフとの連携を密に取って事業を行った。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	池上 順子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
2	有瀬 尚子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
3	早瀬 郁子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
4	貞松 明子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
5	馬場 三佳	佐賀市国際交流協会
6	木原 智典	鹿島市役所企画財政課
7	中村 亮太	嬉野市役所産業建設部うれしの温泉観光課
8	松尾 千春	武雄市役所つながる部企画課
9	植松芳幸	鹿島日本語教室
10	山口浩	武雄日本語教室
11	小山清美	神埼日本語教室

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 8 月 22 日(土) 15:00-16:00	1 時間	嬉野公民館	品川安代(中村氏 代理) 松尾千春 植松芳幸 山口浩 貞松明子、 有瀬尚子	1. 鹿島市で「フォローアップ講座」と「初級日本語集中講座」を開催する意義、趣旨説明 2. 開催場所、日程、託児などの検討 3. 周知、告知方法の検討・依頼
2	平成 27 年 10 月 17 日(土) 15:00-16:00	1 時間	鹿島市民交流 プラザかたらい	木原智典 中村亮太 植松芳幸 小山清美 池上順子 貞松明子	1. 鹿島市で開催した「フォローアップ講座」と「初級日本語集中講座」の総括(報告と内容検討) 2. 今後の展開について
3	平成 27 年 4 月 18 日(土) 16:00-19:00	3 時間	佐賀市国際交 流協会	池上順子 貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳	“カスタネット”運営委員会 ・平成 27 年度文化庁委託事業について、3つの事業それぞれの担当者から計画を聞き検討を行う
4	平成 27 年 5 月 16 日(土) 14:00-15:00	3 時間	佐賀市民活動 センター	池上順子 貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳	“カスタネット”運営委員会 ・6～7 月開講の文法ブラッシュアップ講座について、講座の担当決めと内容の詳細検討 ・秋実施予定の鹿島フォローアップ講座についての検討
5	平成 27 年 7 月 18 日(土) 14:00-17:00	3 時間	佐賀市国際交 流協会	池上順子 貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳	“カスタネット”運営委員会 ・文法ブラッシュアップ講座について、経過報告 ・秋実施予定の伊万里集中講座、鹿島フォローアップ講座、鹿島集中講座についての交渉報告、内容の検討 ・「日本語ボランティア教室活動ブック」の検討

6	平成 27 年 10 月 2 日(金) 17:00-19:00	2 時間	佐賀市国際交 流協会	池上順子 貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳	“カスタネット”運営委員会 ・鹿島フォローアップ講座、伊万里集中講座につ いて、経過報告 ・鹿島集中講座の結果報告 ・神埼と小城で実施予定の集中講座について検討 ・「日本語ボランティア教室活動ブック」の検討
7	平成 27 年 12 月 11 日(金) 16:00-19:00	3 時間	佐賀市国際交 流協会	池上順子 貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳	“カスタネット”運営委員会 ・鹿島フォローアップ講座、伊万里集中講座につ いて結果報告 ・神埼集中講座について検討 ・「日本語ボランティア教室活動ブック」の検討と「手 引き」について詳細検討
8	平成 28 年 1 月 15 日(金) 10:00-14:00	4 時間	佐賀市国際交 流協会	池上順子 貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳	“カスタネット”運営委員会 ・神埼集中講座、小城集中講座について日程の確 認と内容検討 ・「日本語ボランティア教室活動ブック」の検討と「手 引き」について詳細検討
9	平成 28 年 3 月 21 日(月) 14:00-16:00	2 時間	佐賀市国際交 流協会	池上順子 貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 馬場三佳	“カスタネット”運営委員会 ・「日本語ボランティア教室活動ブック」と「手引き」に ついて報告 ・集中講座終了報告

6. 日本語教育の実施

6-1

(1) 活動名称

・「初級日本語集中講座」in 鹿島

(2) 目的・目標

・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習の意欲を継続させる。一般に、上記目的は地域日本語教室のボランティアの活動に任されている現状があるが、日本語専門家が行うことで、その負担を軽減する。また、最終日には最寄りの日本語教室のボランティアを招いて発表会を実施し、日本語教室へつなぐことで、受講者の継続的な日本語学習を促す。

(3) 対象者

・来日直後の外国籍住民/長年住んでいても、日本語専門家による初期指導を受けていない、又は体系的に日本語学習をしていない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数)

・ 38 時間 (6 時間 × 6 回 最終日に発表会2時間)

(5) 使用した教材・リソース

・ 当団体“カスタネット”独自作成教材

(6) 参加者の総数 8 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載
 そのうちの日本語学習者数 2 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
	1								6

※その他の国籍と人数: イギリス1名

(7) 日本語教育の実施内容

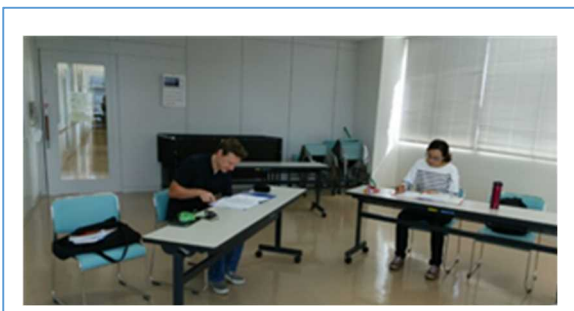
回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 20 日(日) 9:00-16:00	6 時間	鹿島市民 交流プラザ かたらい	2 人	自己紹介 名詞文 動詞文	あいさつや簡単な自己紹介をする。数字、月日、時間、物の名前を学ぶ。名詞文を理解し、作って言えるようになる。初級文法の復習、動詞の活用、形容詞の活用。	有瀬 尚子	なし
2	平成 27 年 9 月 21 日(月) 9:00-16:00	6 時間	鹿島市民 交流プラザ かたらい	2 人	動詞文 助詞の整理 普通体 普通形「～んです」	動詞文を理解し、作って言えるようになる。助詞の用法を整理して確認し、正しく使えるようになる。会話でよく使う「～んです」が適切に使える。	池上 順子	なし
3	平成 27 年 9 月 22 日(火) 9:00-16:00	6 時間	鹿島市民 交流プラザ かたらい	2 人	形容詞文、 比較、 名詞修飾、 とき、 自動詞 他動詞	い形容詞、な形容詞の意味がわかり、活用を理解する。物や人の様子、様々な状況を形容詞を使って言えるようになる。名詞修飾を使い、物や人の様子、様々な状況が言えるようになる。	早瀬 郁子	なし
4	平成 27 年 9 月 25 日(金) 9:00-16:00	6 時間	鹿島市民 交流プラザ かたらい	2 人	存在文 動詞分類、 自動詞 他動詞	存在文を使い、物や人の様子、様々な状況が言えるようになる。動詞活用の分類がわかる。自動詞、他動詞の用法を理解する。	貞松 明子	なし
5	平成 27 年 9 月 26 日(土) 9:00-16:00	6 時間	鹿島市民 交流プラザ かたらい	2 人	動詞活用、 て形応用、 授受	動詞活用(て形、た形、ない形などを理解し、様々な文型の運用ができる。て形を使った表現を練習する。授受の概念を理解し、適切に使えるようになる。	早瀬 郁子	なし
6	平成 27 年 9 月 27 日(日) 9:00-18:00	8 時間	鹿島市民 交流プラザ かたらい	8 人	普通体 丁寧体 敬語 まとめ 発表会	動詞活用(て形、た形、ない形などを理解し、様々な文型の運用ができる。て形を使った表現を練習する。授受の概念を理解し、適切に使えるようになる。授業で書いた作文を発表する。	有瀬 尚子	早瀬 郁子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第4回 27年9月25日】

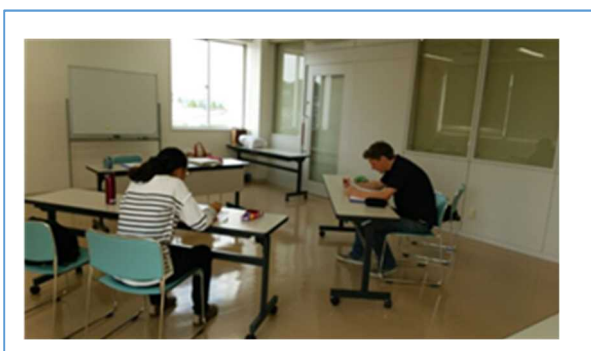
・レベルの違う2人の日本語学習者に対する「初級日本語集中講座」となった。1人は「初級日本語集中講座」が想定するゼロ初級レベルで、もう1人は初級後半レベル。あるところ是一緒に学び、あるところは別々に学ぶ、という複式のクラス活動になった。でも、お互いが相手を思いやって、楽しい活動になった。



取組事例②

【第6回 27年9月27日】

最終日の午後、動詞の活用(て形、た形、ない形、辞書形)や、普通体、丁寧体などを体系立てて学習した後、テキストを見ながら書き込んでいる様子である。じっくりと考えながら書く姿が毎回の講座で見られた。書き込みながら日本語の文法が自分の中にストンと入ってくるようで、終わった後は明るい表情だった。



6-2

(1) 活動名称

- ・「初級日本語集中講座」in 伊万里

(2) 目的・目標

- ・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習の意欲を継続させる。一般に、上記目的は地域日本語教室のボランティアの活動に任されている現状があるが、日本語専門家が行うことで、その負担を軽減する。また、最終日には最寄りの日本語教室のボランティアを招いて発表会を実施し、日本語教室へつなぐことで、受講者の継続的な日本語学習を促す。

(3) 対象者

- ・来日直後の外国籍住民/長年住んでいても、日本語専門家による初期指導を受けていない、又は体系的に日本語学習をしていない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数)

- ・ 38 時間 (6 時間 × 6 回 最終日に発表会2時間)

(5) 使用した教材・リソース

- ・ 当団体“カスタネット”独自作成教材

(6) 参加者の総数 10 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 5 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
2	1				1	1		3	2

※その他の国籍と人数:

(7) 日本語教育の実施内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 28 日(月) 9:00-16:00	6 時間	伊万里市民センター	3 人	自己紹介 名詞文 動詞文	あいさつや簡単な自己紹介をする。数字、月日、時間、物の名前を学ぶ。名詞文を理解し、作って言えるようになる。動詞の活用がわかる。	有瀬 尚子	なし
2	平成 27 年 9 月 29 日(火) 9:00-16:00	6 時間	伊万里市民センター	2 人	動詞の分類、活用	動詞文を理解し、作って言えるようになる。助詞の用法を整理して確認し、正しく使えるようになる。	有瀬 尚子	なし

3	平成 27 年 9 月 30 日(木) 9:00-16:00	6 時間	伊万里市民セ ンター	2 人	形容詞文、 比較	い形容詞、な形容詞の意味 がわかり、活用を理解する。 物や人の様子、様々な状況 を形容詞を使って言えるよう になる。	貞松 明子	なし
4	平成 27 年 10 月 1 日(木) 9:00-16:00	6 時間	伊万里市民セ ンター	2 人	存在文 動詞分類、	存在文を使い、物や人の様 子、様々な状況が言えるよう になる。動詞活用の分類が わかる。	貞松 明子	なし
5	平成 27 年 10 月 3 日(土) 9:00-16:00	6 時間	伊万里市民セ ンター	4 人	動詞活用、 て形応用、	動詞活用(て形、た形、ない 形などを理解し、様々な文型 の運用ができる。て形を使っ た表現を練習する。	有瀬 尚子	なし
6	平成 27 年 10 月 4 日(日) 9:00-18:00	8 時間	伊万里市民セ ンター	10 人	普通体 丁寧体 まとめ 発表会	普通体と丁寧体の文体を理 解する。 授業で書いた作文を発表す る。	有瀬 尚子	貞松 明子
7	平成 27 年 10 月 11 日(日) 14:00-16:00	2 時間	伊万里市生涯 学習センター	4 人 (10)	継続学習	今講座(集中講座)後に、地 域の日本語教室に継続して 学習ができるよう、学習者と 地域日本語教室の橋渡し、 及び今講座内容の復習を本 人、地域日本語教室ボラン ティア及び当講師にて行う。	有瀬 尚子	なし
8	平成 27 年 10 月 18 日(日) 14:00-16:00	2 時間	伊万里市生涯 学習センター	4 人 (10)			有瀬 尚子	なし
9	平成 27 年 11 月 22 日(日) 14:00-16:00	2 時間	伊万里市生涯 学習センター	3 人 (8)			有瀬 尚子	なし
10	平成 27 年 11 月 29 日(日) 14:00-16:00	2 時間	伊万里市生涯 学習センター	4 人 (8)			有瀬 尚子	なし
11	平成 27 年 12 月 13 日(日) 14:00-16:00	2 時間	伊万里市生涯 学習センター	4 人 (7)			有瀬 尚子	なし
12	平成 28 年 1 月 31 日(日) 14:00-16:00	2 時間	伊万里市生涯 学習センター	4 人 (8)			有瀬 尚子	なし

継続学習での受講者数:()内は学習者と日本人ボランティアスタッフを合わせた人数

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第2回 27年9月29日】

2日目の午後、名詞語彙や動詞を覚え、名詞文、動詞文を作った。動詞文では、動作動詞、移動動詞を使い、助詞を正しく使えるように練習を行った。この日は2人だけの学習でやや寂しかったが、お互いに励まし合い助け合う姿はいつも見られる光景である。連日の長時間の集中講座ならではの連帯感が生まれている。



取組事例②

【第6回 27年10月4日】

最終日の交流会の様子である。日本語で発表をした。国では何をしていたか、どうして伊万里市に来たのか、自分のことを今まで勉強した文型を使って作文したものを発表した。発表会には伊万里の日本語教室のボランティアや、昨年当講座を受け、ボランティア教室で継続して学んでいる人も参加し、発表を聞いた。



6-3

(1) 活動名称

・「初級日本語集中講座」in 神埼

(2) 目的・目標

・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習の意欲を継続させる。一般に、上記目的は地域日本語教室のボランティアの活動に任されている現状があるが、日本語専門家が行うことで、その負担を軽減する。また、最終日には最寄りの日本語教室のボランティアを招いて発表会を実施し、日本語教室へつなぐことで、受講者の継続的な日本語学習を促す。

(3) 対象者

・来日直後の外国籍住民/長年住んでいても、日本語専門家による初期指導を受けていない、又は体系的に日本語学習をしていない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数)

・ 38 時間 (6 時間 × 6 回 最終日に発表会2時間)

(5) 使用した教材・リソース

・ 当団体“カスタネット”独自作成教材

(6) 参加者の総数 4 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 2 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									2

※その他の国籍と人数：台湾2人

(7) 日本語教育の実施内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 1 月 13 日(水) 9:00-12:00	3 時間	神埼中央公民館	2 人	名詞文 動詞文 形容詞文 活用 文体	初級文法の復習をする。 動詞の活用、形容詞の活用、丁寧体、普通体などの確認をする。	有瀬 尚子	なし
2	平成 28 年 1 月 18 日(月) 9:00-12:00	3 時間	神埼中央公民館	2 人	普通体 普通形 「～んです」	動詞文を理解し、作って言うようになる。会話でよく使う「～んです」が適切に使える。	貞松 明子	なし
3	平成 28 年 2 月 5 日(金) 9:00-16:00	6 時間	神埼中央公民館	2 人	名詞修飾、 とき、 自動詞 他動詞	名詞修飾を使い、物や人の様子、様々な状況が言えるようになる。 自動詞、他動詞の概念を理解する。	早瀬 郁子	なし
4	平成 28 年 2 月 6 日(土) 9:00-16:00	6 時間	神埼中央公民館	2 人	自動詞 他動詞 て形応用	自動詞、他動詞の用法を理解し、正しく使い分けて言うように練習する。 「～ている」の用法を理解し、適切に使えるようになる。	有瀬 尚子	なし
5	平成 28 年 2 月 7 日(日) 9:00-16:00	6 時間	神埼中央公民館	2 人	授受 受身	授受の概念を理解し、適切に使えるようになる。 受身の概念、活用を理解する。	早瀬 郁子	なし
6	平成 28 年 2 月 8 日(月) 9:00-16:00	6 時間	神埼中央公民館	2 人	複文	「～と、～たら、～ば、～ので、～のに、」を理解し、運用力をつけるための練習を行う。	貞松 明子	なし
7	平成 28 年 2 月 10 日(水) 9:00-18:00	8 時間	神埼中央公民館	4 人	敬語 まとめ 発表会	待遇表現である尊敬語や謙譲語の体系を理解し、適切に使えるようになる。授業で書いた作文を発表する。	有瀬 尚子	早瀬 郁子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第2回 28年 1月18日】

神埼での集中講座に参加したのは「初級」ではなく「中級」の日本語学習者だったので、急遽内容を変えて実施した。滞日1年近くなる彼らも、きちんと学ぶ機会が少なかったようで、日本語学ぶことに喜びを感じているようだった。しっかり書き留めて、しっかり覚えようと努力していた。

取組事例②

【第7回 28年 2月17日】

最終日の交流会の様子である。今回の集中講座で初級後半の文法をきちんと学んだことで、日本語力が非常に伸びた。発表会では、神埼日本語教室で活動しているボランティアの前で、大学での生活や将来の夢、地域の方々への感謝の気持ちを作文に書いて発表した。



6-4

(1) 活動名称

- ・「初級日本語集中講座」in 小城

(2) 目的・目標

- ・初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習の意欲を継続させる。一般に、上記目的は地域日本語教室のボランティアの活動に任されている現状があるが、日本語専門家が行うことで、その負担を軽減する。また、最終日には最寄りの日本語教室のボランティアを招いて発表会を実施し、日本語教室へつなぐことで、受講者の継続的な日本語学習を促す。

(3) 対象者

- ・来日直後の外国籍住民/長年住んでいても、日本語専門家による初期指導を受けていない、又は体系的に日本語学習をしていない外国籍住民

(4) 開催時間数(回数)

- ・ 38 時間 (6 時間 × 6 回 最終日に発表会2時間)

(5) 使用した教材・リソース

- ・ 当団体“カスタネット”独自作成教材

(6) 参加者の総数 10 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 6 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
1			2		2				4

※その他の国籍と人数：アメリカ 1 人

(7) 日本語教育の実施内容

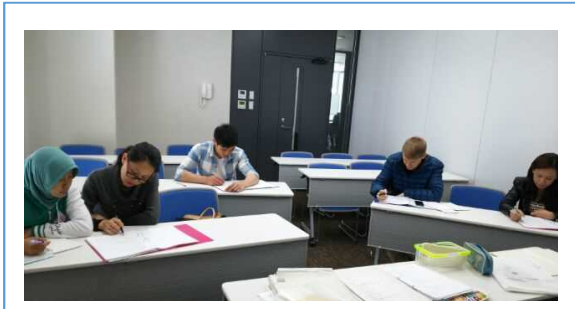
回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 3 月 12 日(土) 9:00-16:00	6 時間	まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城	2 人	自己紹介 名詞文 動詞文	あいさつや簡単な自己紹介をする。数字、月日、時間、物の名前を学ぶ。名詞文を理解し、作って言えるようになる。初級文法の復習、動詞の活用、形容詞の活用	有瀬 尚子	なし
2	平成 28 年 3 月 13 日(日) 9:00-16:00	6 時間	まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城	4 人	動詞文 助詞の整理 自動詞 他動詞	動詞文を理解し、作って言えるようになる。助詞の用法を整理して確認し、正しく使えるようになる。 自動詞、他動詞の用法を理解し、正しく使い分けて言えるように練習する。	貞松 明子	なし
3	平成 28 年 3 月 14 日(月) 9:00-16:00	6 時間	まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城	1 人	形容詞文	い形容詞、な形容詞の意味がわかり、活用を理解する。物や人の様子、様々な状況が言えるようになる。	貞松 明子	なし
4	平成 28 年 3 月 18 日(金) 9:00-16:00	6 時間	まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城	1 人	形容詞文 応用 動詞分類、	好き嫌い、自分の欲求(ほしい、～たい)を学習し、言えるようになる。 動詞活用の分類がわかる。	有瀬 尚子	なし
5	平成 28 年 3 月 19 日(土) 9:00-16:00	6 時間	まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城	6 人	動詞活用 て形 自動詞、他動詞	動詞分類を理解して形を使った表現を練習する。 自動詞、他動詞の概念を理解し、適切に使えるようになる。	貞松 明子	なし
6	平成 28 年 3 月 20 日(日) 9:00-18:00	8 時間	まちなか市民交流プラザゆめぶらっと小城	10 人	動詞活用 応用 敬語 まとめ 発表会	動詞活用(て形、た形、ない形など)を理解し、様々な文型の運用ができる。て形を使った表現を練習する。敬語の概念を理解し、適切に使えるようになる。 授業で書いた作文を発表する。	有瀬 尚子	池上 順子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第6回 28年3月20日】

テキストの問題を考えている様子である。初日は全く分からなかった文法も理解できるようになり、自分で思い出したり、テキストの中を調べたりしながら書き込んでいた。また、お互い教え合う姿も見られてほほえましかった。人に教えることで、自分の中で整理が進むのであろう。



取組事例②

【第6回 28年3月20日】

最後の発表会で作文を発表している様子である。それぞれ、国も仕事も違う人が、今思っていることなどを作文で発表し、小城市に住みながら会ったことのなかった人との出会いを喜んでいた。今回の受講者の中には企業の技能実習生が含まれていた。彼らは週末の1日(か2日)しか受講できなかったが、それでも参加したいとやってきた。同じ町にいろいろな立場で生活している友だちがいるとわかって、受講者の方たちも心強かったようだ。

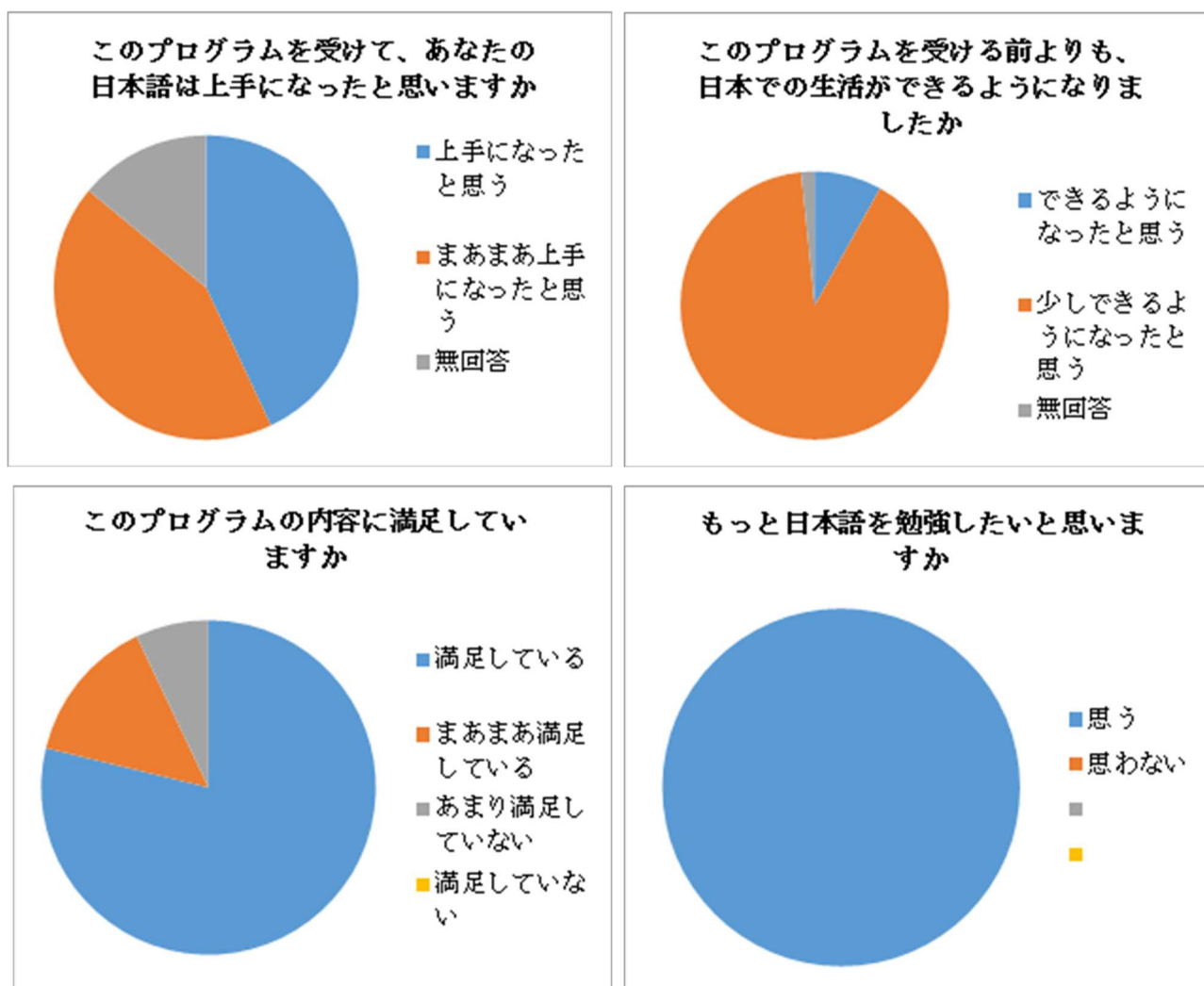


(9) 目標の達成状況・成果

＜「初級日本語集中講座」の成果＞

- ・市の担当部署や、地域のボランティア教室との連携により、集中講座の受講者へ周知がうまくできた。
- ・長年住んでいながら全く日本語を勉強することがなかった(遠方のため勉強する機会に恵まれなかった)人が、こちらが地域に出向くことで学習することができた。
- ・地域で開催することにより、同じ市に住みながら、今まで会ったことがなかった同国の人や、同じ在留資格、状況の人との出会いがあった。その後、ボランティア教室で継続学習することでより親しくなるだろう。

・地域で「初級日本語集中講座」を開き、ボランティア教室への橋渡しを行っていることで、地域のボランティア教室同士の交流の橋渡しもできるようになった。



<受講者の感想>

・はじめてこのクラスきたときにこまるになったんですけど、にほんごがおもしろかったです。このしゅうちゅうこうざ、またあったら、どうぶつとにちようびのほうがいいです。いつもきたいのです。

・この1週間授業はとても楽しかったと思います。たくさん新しい日本語を勉強しました。

・文法の内容はほとんど知っていますが、国の日本語の本とは違いました。生活でよく使う言語と、ニュアンスを習ったことがよかったです。

・The class was great and helpful. I cannot speak Japanese mostly, Because of confidence, but I now know and understand basic grammar and sentence structure.

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

①「初級日本語集中講座」を理解するための文法ブラッシュアップ講座

②地域の日本語教室の活動を活性化するためのフォローアップ講座

【①文法ブラッシュアップ講座】

(2) 目的・目標

「初級日本語集中講座」を修了した学習者が継続して地域の日本語教室で学んでいる中で、教室のスタッフから内容を理解したいという声が上がっていた。「日本語ボランティア教室活動ブック」を活用していただくために、文法に特化した講座を開講する。

(3) 対象者

・佐賀県内で活動中のボランティア

(4) 開催時間数(回数)

・ 12 時間 (2 時間 × 全 6 回)

(5) 使用した教材・リソース

・当団体作成の「日本語ボランティア教室活動ブック」等

(6) 受講者の総数 15 人 ※延べ人数ではなく、受講した人数を記載

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
0	0	0	0	0	0	0	0	0	15

※その他の国籍と人数:

(7) 養成・研修の具体的内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	研修概要	講師名	補助者名
1	平成 27 年 6 月 14 日(日) 10:00-12:00	2 時間	佐賀市民活動センター 会議室	10 人	「初級日本語集中講座」の内容を知る	・講座オリエンテーション ＜「初級日本語集中講座」について＞ ・日本語の基礎とは ・「こそあど」と「助詞」	貞松明子	早瀬郁子
2	平成 27 年 6 月 28 日(日) 10:00-12:00	2 時間	佐賀市民活動センター 会議室	10 人	「初級日本語集中講座」の内容を知る	＜動詞文について＞ ・存在文、動詞の種類 ・動詞のグループ分け/活用	貞松明子	池上順子
3	平成 27 年 7 月 5 日(日) 10:00-12:00	2 時間	佐賀市民活動センター 会議室	19 人	「初級日本語集中講座」の内容を知る	＜形容詞文について＞ ・形容詞の種類/活用/応用 ・「初級日本語集中講座」で扱う範囲と「活動ブック」	貞松明子	早瀬郁子
4	平成 27 年 7 月 12 日(日) 10:00-12:00	2 時間	佐賀市民活動センター 会議室	11 人	「初級日本語集中講座」の内容を知る	＜動詞の活用と文体について＞ ・動詞の活用形とそれを使う文型/普通形の話	貞松明子	池上順子

5	平成 27 年 7 月 19 日(日) 10:00-12:00	2 時間	佐賀市民活 動センター 会議室	12 人	「活動ブック」の使い 方を知る	＜「日本語ボランティア教室 活動ブック」の使い方①＞ ・4 課分を取り上げ、解説とワ ーク	有瀬尚子	貞松明子
6	平成 27 年 7 月 26 日(日) 10:00-12:00	2 時間	佐賀市民活 動センター 会議室	9 人	「活動ブック」の使い 方を知る	＜「日本語ボランティア教室 活動ブック」の使い方②＞ ・3 課分を取り上げ、解説とワ ーク	早瀬郁子	貞松明子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 2 回 27 年 6 月 28 日】

「初級日本語集中講座」の内容のうち、動詞文の解説をした。動詞文の中でも特異性のある存在文、動詞のグループ分けや活用形の問題、を取り上げた。ほとんど座学でパワーポイントを使って進めているが、受講者からは積極的に質問が出ていた。講座内で回答できない質問や聞きそびれた質問はアンケート用紙に書いてもらい、次の講座の初めに回答するようにしていた。



取組事例②

【第 6 回 27 年 7 月 26 日】

「日本語ボランティア教室活動ブック」の作成意図と内容を理解して上で、2 つの課を取り上げて実際に使ってみた。学習者は不在でも、活動中のボランティアの集まりなので、学習者を想定して活動ができた。実際に使ってみることで、理解が進んだようだ。



(9) 目標の達成状況・成果

・「初級日本語集中講座」を修了した学習者が継続して地域日本語教室で学んでいる中で、活動中のボランティアから内容を理解したいという声が上がっていた。昨年度作成して今年度改訂を加えた「日本語ボランティア教室活動ブック」を地域日本語教室で活用していただくためにも必要なことと考えて、敢えて文法に特化した座学の講座を企画した。受講者は活動中のボランティアで、佐賀市で開講したため佐賀市内在住者を中心に集まった。

・主な意見は「自分の日本語を見直すいい経験になりました。日本語教室で「活動ブック」の一部を使ってみたところ、短時間で効率よく能力アップを実感した。今後も使っていきたい」「自分なりの文法のまとめができた」「毎回たくさんの気付きがあり、とても勉強になりました」「文法を押さえておくために有意義な講座でした」「こちらが自信をもって説明できる知識は必要だと思います」「何度受けても新たな発見があり、参加した甲斐がありました」など。

(10) 今後の改善点について

・「初級日本語集中講座」で学んでいる内容を知り、そして「日本語ボランティア教室活動ブック」の内容を理解して使っていただくためには、解説するための講座が必要である。今回佐賀市で開講してみたところ、活動を始めたばかりのボランティアが多く集まった。しかし、遠くの市町村在住の方々は参加できなかった。「日本語ボランティア教室活動ブック」を普及させるためには、内容理解講座として各地域に出向いて開講する必要がある。

【②日本語教室活性化フォローアップ講座】

(2) 目的・目標

・日本語教室の参加者(ボランティアも学習者も)が少ない地域で、教室活動を活性化させるための手立てを活動中のボランティアと共に考えながらスキルアップを図る。空白地域でも入門講座を開講し、日本語教室の重要性を訴えて新たなボランティアを発掘する。

(3) 対象者

・鹿島市・嬉野市及び近隣地域の日本語教室で活動中のボランティア・スタッフ及び周辺地域の一般市民

(4) 開催時間数(回数)

・ 24 時間 (2 時間 × 全 12 回)

(5) 使用した教材・リソース

- ・カリキュラム案「教材例集」
- ・当団体作成の「日本語ボランティア教室活動ブック」

(6) 受講者の総数 20 人 ※延べ人数ではなく、受講した人数を記載

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
									20

※その他の国籍と人数:

(7) 養成・研修の具体的内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	研修概要	講師名	補助者名
1	平成 27 年 8 月 22 日(土) 13:00-15:00	2 時間	嬉野公民館	11 人	入門講座①	・佐賀県の現状と地域日本語教室の役割 ・「やさしい日本語」の紹介とワークショップ	貞松明子	有瀬尚子
2	平成 27 年 8 月 29 日(土) 13:00-15:00	2 時間	嬉野公民館	8 人	入門講座②	・日本語を外国語としてとらえるために文章を分析する。 ・対話型活動の紹介とワーク	貞松明子	有瀬尚子
3	平成 27 年 9 月 5 日(土) 13:00-15:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	15 人	日本語教室 活性化講座	・動詞文について ・カリキュラム案について説明/教材例集から「災害に備え・対応する(火事)」を取り上げ実践に備える。	有瀬尚子	池上順子
4	平成 27 年 9 月 8 日(火) 19:00-21:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	11 人	鹿島日本語教室(夜)での実践	【日本語学習者 2 名参加】 講座で学んだ対応の仕方をもとに、学習者と日本語で交流する。	貞松明子	池上順子
5	平成 27 年 9 月 12 日(土) 13:00-15:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	11 人	日本語教室 活性化講座	・動詞の活用について ・教材例集から「余暇を楽しむ」を取り上げ実践に備える。	有瀬尚子	貞松明子
6	平成 27 年 9 月 19 日(土) 10:00-12:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	6 人	鹿島日本語教室(昼)での実践	【日本語学習者 2 名参加】 講座で学んだ対応の仕方をもとに、学習者と日本語で交流する。	早瀬郁子	貞松明子
7	平成 27 年 9 月 19 日(土) 13:00-15:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	5 人	日本語教室 活性化講座	・文体について ・グループワーク	早瀬郁子	貞松明子
8	平成 27 年 10 月 3 日(土) 13:00-15:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	8 人	日本語教室 活性化講座	・「初級日本語集中講座」の説明と実施報告 ・「日本語ボランティア教室活動ブック」について/2 課分取り上げて説明し、実践に備える。	貞松明子	池上順子
9	平成 27 年 10 月 6 日(火) 19:00-21:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	6 人	鹿島日本語教室(夜)での実践	【日本語学習者 2 名参加】 講座で学んだ対応の仕方をもとに、学習者と日本語で交流する。	貞松明子	池上順子
10	平成 27 年 10 月 10 日(土) 13:00-15:00	2 時間	鹿島市民交流プラザ かたらい	8 人	日本語教室 活性化講座	・「日本語ボランティア教室活動ブック」より 2 課分取り上げて説明し、実践に備える。	有瀬尚子	池上順子

11	平成 27 年 10 月 17 日(土) 10:00-12:00	2 時間	鹿島市民交 流プラザ かたらい	8 人	鹿島日本 語教室(昼) での実践	【日本語学習者 2 名参加】 講座で学んだ対応の仕方をもとに、学習者と日本語で交流する。	貞松明子	池上順子
12	平成 27 年 10 月 17 日(土) 13:00-15:00	2 時間	鹿島市民交 流プラザ かたらい	9 人	日本語教室 活性化講座	・地域日本語教室の活動の重要性 ・今後の活動に向けて、グループで話し合う。	貞松明子	池上順子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【第 3 回 27 年 9 月 5 日】

2 回に渡った日本語ボランティアに対する基本的な講座が終わり、この回からはいよいよ実践に向けた具体的なものになった。カリキュラム案「教材例集」の中の「火事」を取り上げ、どうやって教材を使ったらいいか、ペアで考えながらやってみた。大勢の受講者が集まり、楽しい講座になった。初心者には活動中のボランティアが手助けをしている。



取組事例②

【第 4 回 27 年 9 月 8 日】

鹿島日本語教室の通常の活動時間にお邪魔して、実践①を行った。元々の教室ボランティアと初めて外国人と活動する方が混在したが、ボランティアが初心者に助け船を出して助けていた。初心者もその前の第3回講座で紹介された資料をもとに、何とか意思疎通を図っていた。学習者の 2 人が話をリードする場面もあり、和気藹々とした実践の時間になった。



(9) 目標の達成状況・成果

- ・散在地域に出向いて行つての講座であったが、受講者 20 名で、開催市の鹿島市だけでなく、空白地域の嬉野市、隣接する武雄市、白石町、遠くは伊万里市や神崎市から集まってくれた。佐賀市の開催では来られない方々に、日本語教育に触れてもらうことができた。
- ・今回の「フォローアップ講座」については、鹿島市・武雄市・嬉野市の 3 市の行政担当者が一堂に会し、情報交換をして、日本語教室の現状をボランティアからの視点で聞くことができた。「運営委員会」と位置付けたが、広域での取り組みはなかなかないので、行政担当者への意識付けはできた。
- ・受講者の感想は、高評価であった。活動中のボランティアからは、「活動が続けていく自信が付いた」「生活者のための生活に密着した内容で、内容や活動の仕方が役に立った」「2 か月ぐらいのまとまった講座はわかりやすくいい」「間に『初級日本語集中講座』が入るのは有効な方法だと思う」等の感想をいただいた。
- ・日本語ボランティア未経験者からは、「実践はとても楽しくて、勉強になった」「やさしい日本語で話すのはなかなか難しかったが、今後の課題にしたい」「人の役に立てたら、と思って参加したが、自分のためになった」「日本語についての理解が深まった」「今後も是非参加したい」等の前向きな感想をいただいた。
- ・空白地域の嬉野市在住の方からは、「嬉野日本語教室」が作れないか、またこのような機会を設けてほしいという意見があり、こちらの趣旨が伝わったと意を強くした。

(10) 今後の改善点について

- ・開催市での新たなボランティア候補者の掘り起こしができないかと期待していたが、思うように集まらなかった。もう少し早い時期からの情報発信が必要であったと思われる。
- ・後日、鹿島日本語教室に行く機会があり、様子を見ることとボランティアに話を聞くことができた。教室活動は順調に行なわれており、外国人の日本語学習者は変わらずに参加していたが、閉講時にボランティアを続けたいと表明していた方が続けないことがわかった。これは、教室のボランティア間の連絡体制が上手く取れていないせいだと思われる。今後は、講座終了後も関わりを持ち続けて、新たな人材が教室に定着するまで見守る必要がある。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

- ①日本語ボランティア教室活動ブック
- ②日本語ボランティア教室活動ブックの手引き

(2) 対象

- ・地域日本語教室で活動する外国人参加者及び日本語ボランティア

(3) 目的・目標

- ・地域日本語教室で有効に活用できる教材の改訂及び増補(外国人参加者とボランティアのために)
- ・日本語ボランティアが「日本語ボランティア教室活動ブック」の内容を理解して上手く活動できるように、教材の使い方を詳しく記した手引き書を作る。

(4)構成（総ページ数： ページ）

①68ページ（うち、48ページは平成 26 年度作成の教材を元に改訂を加えました）

②37ページ

(5)教材の具体的な活用方法

①日本語ボランティア教室活動ブック

- ・地域日本語教室で、外国人参加者と活動する際に使用する。
- ・当団体が実施している「初級日本語集中講座」を受講した後、日本語教室に通う外国人参加者に対する適切な教材、ということ意識して文化庁の平成 26 年度の委託事業で作成した。その 10 課分を改訂し、新たに 5 課分 20 ページを増やすことで、さらに使える対象が増えた。

②日本語ボランティア教室活動ブックの手引き

- ・地域日本語教室で「日本語ボランティア教室活動ブック」を使用する際、ボランティアに読んでもらう。教材の内容、活動するためのヒント、注意点などが書かれているので、ボランティアは活動しやすい。

(6)具体的な活用例

- ・日本語教室で使用したところ、中級者で初めて活動ブックを使用した日本語学習者が、1 時間しっかりと活動できた。既習内容も含まれていたが、それを整理し、イラストを見て話すことから話題が広がり、多くの言葉や表現を習得できた。
- ・それに対応したボランティアはまだ活動を初めて間もない人だったが、「手引き」を見ながら活動をしたため、自信をもって臨めた。教材の作成意図を理解することで、効果的な活動になった。

(※)教材説明会の実施

- ・日本語教室でボランティアの方に実際に活用していただけるよう、担当者がボランティアの方に使い方を説明し、実践してもらう説明会を開催した。

	開講日時	時間数	場所	参加者数	説明者(講師)名
1	平成 28 年 2 月 9 日(火) 19:00-20:00	1 時間	ゆめプラット 小城	5 人	貞松明子
2	平成 28 年 2 月 28 日(日) 14:00-15:00	1 時間	伊万里市生涯学習センター	6 人	有瀬尚子
3	平成 28 年 3 月 6 日(日) 14:00-15:00	1 時間	伊万里市生涯学習センター	4 人	有瀬尚子
4	平成 28 年 3 月 15 日(火) 19:00-20:00	1 時間	ゆめプラット 小城	5 人	貞松明子

(7) 成果物のリンク先



8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

・ 佐賀県は外国籍住民の散在地域で、これまで地域日本語教室が非常に少なかった。当団体が文化庁委託事業で平成 24 年度から始めた事業により、平成 26 年末現在 9 市に 12 の教室が活動している。今年度は「初級日本語集中講座」を受講した外国籍住民を地域の日本語支援ボランティアに繋ぐ構図をしっかりとものにしたい。そのためにフォローアップ講座を開講する。現在活動中のボランティアからの要望が多い文法講座も開講する。また、昨年度作成した日本語教室用の教材「日本語ボランティア教室活動ブック」の改訂・増補を行う。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・「初級日本語集中講座」は今年度も 4 市で開催できた。人数はそれほど多くなかったが、受講者はそれぞれ大変熱心に勉強した。その日本語学習者を長く支える日本語ボランティアを鹿島市で養成した。ボランティアが楽しく活動できるように、その手立てとして「カリキュラム案活動例集」と「日本語ボランティア教室活動ブック(旧版)」が活かされた。今年度作成した「日本語ボランティア教室活動ブック」と「手引き」は、これから各教室で活かされることだろう。この一連の流れの成果は、それぞれの事業の中でとったアンケートや、運営委員会で総括された。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・「日本語教室活性化フォローアップ講座(鹿島市)」は、活動中のボランティアとボランティア初心者が混在する養成講座であったが、どちらの立場の人にもカリキュラム案「活動例集」を使っでの活動方法は役に立った。具体的な使い方をアドバイスして、グループでどのように教材を活用するかを考えてシミュレーションを行ってから実践をしたので、いろいろな使い方ができた。

・「災害」については「火事」を取り上げた。「教材例集」では「火事と地震」が取り上げられているが、九州では地震より台風の対策を取り上げたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・「日本語教室活性化フォローアップ講座(鹿島市)」は、鹿島市役所企画財政課との連携があつてこそできた。担当者とは数年の付き合いがあり、鹿島市の名義後援を得ることで、会場を無料で使用させていただいた。市報とホームページへの掲載、チラシの配布等の広報面でも協力いただいた。
- ・空白地域の嬉野市の担当者とは初めての連携だったが、温泉街には外国人も多く働いているとのことで、日本語教室には関心を持っていた。今後さらに連携を強くして、日本語教室を作るところまで持って行きたい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・「初級日本語集中講座」と「日本語教室活性化フォローアップ講座」については、開催市の行政担当者との連携で、市報・ホームページに掲載していただいた。チラシの配置、全戸回覧、地域のコミュニティ放送への出演なども行なった。成果はそれほど大きくはないが、広報を見た日本人からの申し込みも少なからずあった。フォローアップ講座については、地元新聞への掲載をお願いした。ボランティア教室の活動が充実している地域はそこからの紹介が一番多かった。
- ・教材については、完成が年度内ギリギリになってしまったため、地域日本語教室への発信が十分ではない。年度は変わってしまうが、折に触れ、地域日本語教室へ両冊子を配布して使っていただけるようにする。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・運営委員がどうしても偏ってしまう傾向にあるので、今後は幅広い意見をいただくために広く協力者を求めている。
- ・連携に関しては、行政担当者や地域のボランティア教室との連携がとれたところとそうではないところがあった。日本語学習者のためには、その差を埋めていかなければならない。
- ・「初級日本語集中講座」に関しては、学習意欲はあっても、仕事や距離の問題で全日程に参加するのが難しい人がいた。「生活者としての外国人」の範囲がやや変わってきている昨今、「初級日本語集中講座」のあり方、考え方の見直しも必要になってきた。
- ・教材作成の計画が遅くなりがちなので、全体の計画が狂ってしまう。今後はしっかりとした計画を立てて、初期目標をしっかり達成したい。

(7) その他参考資料